

生成 A I 研究校実践事例

学校名	都立立川国際中等教育学校（後期課程）		
学年	第 5 学年	教科等	英語
単元名	生成 A I で探る「A I の限界と可能性」（1 時間）		
授業の概要	<p>・ 英語によるプロンプトおよび Follow-up prompts（話を広げたり答えを明確にするための質問）の文を理解し、目的や必要に応じて使うことを学ぶ。</p> <p>・ 生成 A I を用い、個人作業で教科書の内容を深く掘り下げ、深めた知見をグループワークで他者に伝える共有する。</p>		
本時において生成 A I を活用する良さ	<p>生徒は、前時までに教科書を用いて「A I ロボットの利点と欠点について述べたウェビナーの原稿」の読解をしている。それを踏まえ、教科書のリスニング教材をさらに発展すべくロボットペット等について生成 A I 用いて様々な視点からの見解を調べることで、新しい知見を得るとともに生徒一人ひとりの興味や関心に合わせ理解を深めることが期待できる。</p>		

本時の目標 (1/1時間)	英語による生成 A I の活用を通じ、「A I の可能性と限界」について新たな視座を獲得し、理解を深める。	
	●主な学習活動・生徒の活用	□生成 A I の活用
本時の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ● ロボットの未来についての聴解教材を聴き、(1) Robot doctor、(2) Robot pet、(3)Robot teacher、(4) Robot police officer の特徴について聴き取る。[7分] ● 上述のロボットについて整理し、紹介されていること以外の利点・欠点をペアで話し合う。[3分] ● 英語を用いた生成 A I で、目的や関心に合わせて情報を取捨選択する方法を確認する。[10分] ● 生徒は、上述の(1)～(4)から、調べるトピックを割り振られ、生成 A I を用いてその利点や欠点を調べる。[15分] ● 個人作業で調べ、新たな知見として得た内容について、グループ内で共有する。[7分] ● コラボレーションツールを用いて、振り返りを行う。[3分] 	<ul style="list-style-type: none"> □英語を用いたプロンプトの意味を確認 □Follow-up prompts の意味を確認 □入手した情報について、要約したり、意味を確認したり、裏付け情報を得たりしながら自分が求める答えを引き出していく。

	使用したプロンプト例	出力例
1	I am a non-English native Japanese high school student. I am working on my assignment on the limits and possibilities of AI. You are my English teacher, please tell me the benefits and drawbacks of AI teachers using simpler English (please do not use Japanese since I am learning English).	Sure, I'd be happy to help. Benefits of AI Teachers: 1. Availability: AI teachers are available all the time. You can learn whenever you want. (後略)
2	Please use simpler words.	Sure, I'll simplify it! Good things about AI Teachers: 1. Every Student is Different: AI can help each student in a way that is best for them. Every student learns differently. (後略)

	本時において生成AIを活用する上での配慮事項・ポイント
1	英語で質問をしても日本語で返って来てしまうことがあるので、初めに命令文として "Tell me...using simpler English (please do not use Japanese since I am learning English)." という文言を入れておく。